ホルトノキ

冬の登校を見守ったシクラメン

立教池袋高等学校

高校卒業生へ
しなやかな人生を

校長　吉野　光

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、ご子息の晴れの門出を心よりお祝い申し上げます。

皆さんがこれから社会人としてどんな人生を送るのか、皆さんに未来を託す者として楽しみにしています。

激動と言われる現代において、人々は先人の築いた歴史を大切にしつつ、常に社会の創造を続けてきました。青年期を迎えた皆さんも、新たな社会の創造者として覚悟を持っていると推察いたします。

本校の「共に生きる」と「テーマを持って真理を探求する」の教育目標は、立教学院全体の一貫連携教育の成長する木の幹であり、私たちはこれがイエス・キリストの歩みに基づく普遍的な真理であることを知っています。

在学中から自由な発想で研究活動に取り組み、それを卒業論文としてまとめる力量を備える皆さんが、大学において更に学究を深め、その後の社会でその真価を発揮するために次のことをお伝えします。

一つ目は、社会を構成する一員として、常に状況を見極める冷静な分析力と思考力を備えるということです。これは皆さんが「一生を通じて学ぶ意味を考える」ことにつながります。

二つ目は、広い視野で世界を俯瞰し、将来を見通す力を持つことです。

今日、世界各地で紛争等により命の危険に脅かされ、故郷を追われ、体を休めることさえも困難な人々がたくさんいます。また、かつての日本もそうでしたが、自国の経済を維持するため、環境保全までに余力のない国々がある中、地球環境をどのように守っていくべきか等、グローバルな視点で考え探求することは、誰と「共に生きる」のかにつながります。

三つ目は、互いの人格、多様性を尊重し支え合う人間関係を築いてほしいということです。将来、皆さんが生きていくその現場において、「誰とともに生きるのか」「どのように生きていくか」と問われる時があります。その時にはぜひ聖書を開き、イエス・キリストが「誰と共に生きたのか」を知り、「人間として生きることの意味は何か」を感じて欲しいと願っています。

神様の創られた自然の豊かな営みの中で、多様な価値観を受け止め、自らの可能性を開き、しなやかで爽やかな人生を送っていく人となることを心から応援いたします。

中三組主任より

中学生活のテーマ

昨年度この学年に担任として入ることになったとき、「三年間の目標として〝自律〟を掲げている」と聞かされ、とても驚いた。一年のときから三年後を見通してテーマを設定するというのは、極めて珍しいからだ。この学年に対する先生方の本気が見え、身が引き締まった。

欲望をコントロールし、自分の立てた規範や意志に従って行動する意味を持つ、自律。「つい〇〇してしまう自分と闘い続けること」と言い換えても良いかもしれない。甘えを抑えて、得意にも苦手にも懸命に取り組もうとする君の姿は、きっと皆に認められ応援される。…改めて、目標として据えるのに素晴らしい言葉だ。

さあ、中学生活が終わる。人生まだまだこれから、日々の小さな自律の積み重ねが高校生活を、将来を決める。

卒業、おめでとう。

（二組　中仙道優真）

理想の教室

中学三年間の集大成として英語のスピーチを実施した。「この学年から離れたくない」と切実に思った。発表者が安心してオープンになれるやさしい教室空間。より伝わるスピーチにするためにお互いから何かを得ようとする主体的な姿勢。話し手が詰まった時に応援するポジティブな教室文化。中一で君たちを担当すると決まった時にぼんやりと僕が描いていた教室の景色をこの目で見た。

君たちがこれからどのように成長していくのか期待がさらに高まる。ヒントは一貫して伝えてきたつもりだ。学年としては「自律」、そして僕は特に「やさしさ」を軸にしてきた。自律とは自分で考え、選択し、判断し、より良い行動をすること。また、感情をコントロールすること。そして、やさしさとは、異なる視点を持った他者を受け入れながら合意に向かって辛抱強く対話を続けること。

この三年間、素直で人を受け入れる力を持った最高の生徒たちと、そして信念と情熱を持って生徒と関わることのできる最高の同僚に恵まれたことに感謝している。

卒業おめでとう。今が一番幸せだ。大いなる飛躍を願っている。

（二組　小林隆史）

勝負の神は細部に宿る

「やりたいことと、やらなければならないことを判断する」三年前の入学に向けた言葉でも使い、事あるごとに三年間伝えてきたことである。

自律を学年のテーマに掲げた三年間。これまでに幾度となく選択をし、判断し、挑むことがあったと思う。時には誤った判断をしたときもあったが、その全てが経験…といえるのはもう終わりかもしれない。これからの選択は人生に大きく関わってくるものもあるだろう。それらの判断、挑戦、勝負の結果は、その瞬間は神のみぞ知る。日頃の誠実さ、向き合い方が結果を左右することも、伝えてきたはずだ。

勝負の瞬間は一瞬だからこそ、過去の経験から学び、今できる最善の準備をしてほしい。この三年間が、その時間と学びになったならば幸いだ。

卒業おめでとう。

（三組　最上滉平）

富は、天に積みなさい

三年間を振り返り、どのように感じていますか？やりたい事をやり切った人、やり残した事がある人、もっと頑張ればと感じている人、何となくぞれしょう。しかし、皆がこの三年間で得た経験という「富」を持っていることに変わりはありません。この「富」を君達はどこに積んでいますか？

「富は、天に積みなさい。（中略）あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ」（マタイ6：20-21）

君達の得た経験を活かすのも、無駄にするのも、君たちの次第です。熱意と誠意をもって行動することこそ「天に積む」ことになるのでしょう。この学年で三年間にわたり伝えてきた「自律」というテーマもその一つの手段です。

それぞれ活躍の場は異なりますが、三年間で積んだ「富」は、君達の力になります。新しいステージでの活躍をお祈り致します。卒業おめでとう。

（四組　後藤　寛）

高三組主任より

慌てず良い判断をする為に

今年度は高校三年の担任の為、二月以降学年の生徒は登校しないので朝・放課後の学活に行く必要が無く、十二月・一月時の慌ただしい進路等の業務から解放されて心に多少余裕をもった日々を送っています。余裕があると、焦る事なく客観的に物事を見て、ある程度落ち着いた判断ができます。

君達の多くの人は二月以降の約一か月間、進学先が決定し余裕をもった日々を送っていた事でしょう。

時間的な余裕は与えられるものではなく、自分で作り出すものです。多忙の中でも、隙間時間を如何に有効活用するかが大切です。電車の中・歩いている時間にスマホゲームで楽しんでいるだけで無く、今必要な思考を巡らせる、読書をするだけでも結構時間を作り出す事ができ、心に余裕をもって慌てる事なく判断をする事ができます。大学に入学するまでの期間・入学後の時間的な余裕は個人差があるが、慌てず良い判断ができる為に時間の有効活用を考えてみては如何でしょうか。

（一組　橋本　博）

奇蹟

漫画『チ。』（3巻　魚豊）を読んでいたら、「文字は、まるで奇蹟ですよ」という言葉に遭遇した。「かつていた偉人達が私に向かって口を開いてくれる」、「ずっと未来の誰かを動かす」から文字は奇蹟だと。

文字の力を信じているから国語科の教員をやっているわけだが、現代は文字に溢れているので、奇蹟であることをつい忘れてしまう。当たり前になりすぎていて、なかなか「奇蹟」という単語に結び付かない。

改めて考えてみると、奇蹟は文字だけではない。私たちは奇蹟が織りなす中に生きている。誕生・成長・進路、そして出会いはすべて当たり前ではない。これらを奇蹟だと実感するだけで幸福感は増す。世界の見え方が変わる。

だから、身近なことを奇蹟だと噛みしめられる人生を歩んでほしいと思う。

卒業おめでとう。

（二組　永田真一）

喜び感謝しなさい

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」（一テサロニケ5：16-18）

一番好きな聖書の箇所です。祈るかどうかは皆さんにお任せしますが、「喜びなさい」「感謝しなさい」と命令しています。しかも「いつも」「どんなことにも」です。中学一年の時にこの箇所を担任に教えてもらいました。「いつも喜び」「どんなことも感謝する」というのは難しいです。できているかは怪しいですが、僕はこれを基本にして生きているつもりです。悲しい時やムカつくときもありますが、その後に落ち着いてさっきの聖書を思い出すようにしています。ありきたりですが、感謝することは大事ですね。だから命令されているのだと思います。

初担任のへっぽこ教員でしたが、三年間（五年間）君たちと関われてとても幸せでした。そして、多くのことを学ばせてくれました。ありがとう。そして、また会おう。

（三組　吉井佑介）

Good Luck!

私はよくこのフレーズをみなさんに伝えることがあります。それは、「みなさんの思いが実現しますように」という意味と同時に、「その思いが神様の御心にかなったものでありますように」という気持ちも込めています。

何かを求める時、私たちはそれが「自分だけ良ければ、他はどうなってもよい」という自己中心的なものに陥らないように気をつけるべきでしょう。その思いが神様の意志に適っていれば、それは自ずと与えられるのです。

求める心を持つこと、そのために自分の最善を尽くすこと、そしてそれが「なんのために？」かをいつも忘れないこと。

これからも「光の子として」歩んで行ってください。

God Bless You!

（四組　初瀬川正志）

自己推薦

自己推薦は七項目あり、その中から三項目まで申請できます。今年度も殆どの生徒が学習面と生活面から申請をしました。

学習面は三年間でA合格（B合格二個でA合格に相当）が二十七名。生活面では中高六年間精勤または高校三年間皆勤が三十四名。

共に学校生活において大変努力した結果であると思われます。

満点の一五〇点が八名、一二〇点以上が五十四名の結果でした。

※卒業生受賞者については式当日配布の式文をご覧ください。

2025年度　立教大学　推薦入学者数

学部	学科	専修	推薦枠	合格者数
文	キリスト教		2	0
	史	日本史学	8	8
		世界史学		
		超域文化学		
	教育		3	3
	文	英米文学	6	0
		ドイツ文学	2	0
		フランス文学	2	0
		日本文学	4	2
		文芸・思想	3	3
経済	経済		13	13
	会計ファイナンス		7	7
	経済政策		7	7
理	数		（2）	4
	物理		（2）	2
	化		（2）	0
	生命理		（2）	1

※　新座校より３つ枠を受ける。
※※　新座校より１つ枠を受ける。
理学部は、各学科４名まで。ただし、理学部全体では８名まで。

学部	学科	推薦枠	合格者数
社会	社会	6	6
	現代文化	6	6
	メディア社会	6	6
法	法	14	8
	政治	4	7※
	国際ビジネス法（GLC2）	4	4（GLCは0）
観光	観光	7	3
	交流文化	6	0
コミュニティ福祉	福祉	4	0
	コミュニティ政策	8	0
経営	経営	9	9
	国際経営	7	7
現代心理	心理	6	3
	映像身体	6	4
異文化	異文化コミュニケーション（DLP1）	7	7（OLPは0）
スポーツウエルネス	スポーツウエルネス	8	0
ＧＬＡＰ		1	２※※
合　計		173	122

今月の聖句

聖なる変化

エゼキエル書　36章 26節

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたの内に新しい霊を授ける。あなたがたの肉体から石の心を取り除き、肉の心を与える。

人々が集まって暮らす共同体には、共同体のメンバーが参加し、特定の少数の人を主人公にする儀式が存在します。例えば、初誕生、成人式、結婚式、葬儀などがその例です。このような儀式の背後には、少数の主人公に何らかの変化があることが見て取れます。初誕生は肉体的に母親から切り離される変化を、成人式は社会に出て自ら責任を持って生きる変化を、結婚式は二人が一つになる変化を、葬儀は地上の存在から天上の存在への変化を意味します。私たちはこのような変化を前に、新しいことへの期待を抱きつつも、同時に恐れや不安を感じることもあります。変化とは、従来の慣れ親しんだものや人々との別れ、そして断絶を伴うからです。

一方、人類の共同体は、これらの変化が不可欠であることを認識してきました。そのため、共同体の人々は一緒に集まり、変化を迎える主人公たちを応援し祈ることで、個人の恐れや不安を和らげる手助けをしています。さらに、恐れや不安を超えて、変化を肯定する聖なる時間として感じることもあります。

立教池袋中学校・高等学校では、3月と4月に入学式と卒業式が行われます。この二つの儀式は、主人公である生徒たちに新たな変化を求めるものです。新しい始まりと出会いを意味し、別れと断絶を意味することもあります。変化に備える入学生や卒業生のために、先生方、保護者、先輩たち、後輩たちが一緒に応援し、祈りを捧げます。このような応援と祈りが加わることで、変化は一人の個人の期待、不安、恐怖を超え、聖なる時間として肯定されるのです。この聖なる変化の中で、堂々と成長していく立教人となることを、私たちは心から祈り続けます。

英語条項

今年も英検・TOEICで、ハイスコアを取った生徒が大変多かったようです。一二二名が認定され、このうち、英検二級（またはTOEFL・TOEIC等で同程度のスコア）以上の有資格者が一一二名となりました。

2025年度
立教大学被推薦者の英語条項

英検２級（TOEFL、TOEIC等も含む）以上で認定	91.8%
英検準２級（TOEFL、TOEIC等も含む）＋αで認定	8.2%

中学一年便り

中一の最後に

皆さんは一年前、立教池袋中学校に入学することが決まって、新たな出会いや期待に胸を膨らませていたのではないでしょうか。学校生活に慣れてゆくと、その緊張感や高揚感は、少しずつ薄らいだかもしれません。

中学一年がまもなく終わり、いよいよ二年に進級します。四月には、昨年とはまた違う感情が芽生えることでしょう。おそらく大きな変化の一つは、新入生が入学して、皆さんが「先輩」と呼ばれることです。これにより、一時の優越感に浸る生徒もいるかもしれません。

日本語で「先輩」というと、一般的には、自分よりも先に組織・集団に入った人、または、地位や経験などが自分より上の人を指します。

ところが和英辞典で「先輩」と調べてみると、「英語圏では先輩・後輩のような上下関係の意識が薄い」（『ジーニアス』）、「米英、特に米では日本のように先輩・後輩の関係をあまり重視しない」（『ウィズダム』）と注記があります。

これは、日本語と英語のどちらが良いかという話ではなく、集団内でのコミュニケーションの様式が異なる、つまり、文化差があるという話です。英語を学ぶことにもつながります。それにより、文化を学ぶことにもつながります。

日本語には「先達に学ぶ」という肯定的な表現がありますが、「先輩風を吹かす」という否定的な表現もあります。四月から皆さんが後輩たちにどのように接するのか、どのような姿を見せるのか、それによって後輩と共に成長してゆくことを願っています。

（綾部保志）

中学二年便り

たとえば

たとえば君たちが元気に登校する。最初に会うのは守衛さん、「おはようございます」と声をかけてくれる。君たちは「おはようございます」と言えているか、それともスタスタと通り過ぎてしまっているだろうか。スマホいじりながら下向いてたとしたらこれは悲しい。

たとえば君たちが部活で練習試合に行ったとしよう。初めて会うチームならまずは「よろしくお願いします」。よく一緒になる学校の生徒とは友だちみたいにお話しするようになるかもしれない。他校の方々と笑顔で、しかもしっかり交流できるようになるのって楽しい。

たとえば君たちが高校生になって、おうちの人からO.K.をもらい旅行に行ったとしよう。親御さんも先生もいない、一人あるいは友だちとだけで宿屋さんに行くとはワクワクだ。そ～っとお宿の扉を開き、玄関で「こんにちは。今晩お世話になる○○です」と声をかける。「よくいらっしゃいました。中へどうぞ」。で、靴をしっかり揃て入ったら好印象。

たとえば大学生になってお付き合いする大事な人ができた。バイトの稼ぎを奮発してちょっと高級なレストランへ。2人でメニューを見ながらドキドキが止まらない。これに決めたといざ注文。「すみません。○○と△△をひとつずつ。それから、、、お願いします」なのか「注文～。○○、△△。あと、、、」なのか。どっちのセリフがカッコいいだろう。

いま君たちは中学3年生になろうとしている。多くの人が1年で高校生、そして3～4年もすれば参政権をゲットして大人の仲間入りだ。もう君たちはそんな年齢。だからこそ、自分の行動や言動が「大人っぽいか」「信頼されるか」「相手にどう受け止められるか」などを、客観的に見てみるといいのかなと思います。

（荻野朝行）

高校一年便り

仁和寺にある法師

先日、自宅近くの師岡熊野神社に徒歩で参拝した。お守りを頂き、初穂料を納め、帰ろうとすると、何やら山の上からぞろぞろと下りてくる人々がいる。「何事かありけん、行ってみたい」と思ひましたが、「神へ参るこそ本意なれ」と思ひて、山までは見ず……。

……兼好は私と同じような人を面白く思い、山の上の石清水八幡宮を見られなかった法師に対し、案内人は欲しいものだとからかうのだが、違う方面から眺めると、「神へ参る」ことを「本意」とし、寄り道しなかったことに純粋さを見ることもできる。

古典であるからすばらしいと簡単に持ち上げることはできないと疑問を提示する言葉に出会ったのは東京外国語大の新入生がもらう図書館発行の読書冊子「顫（ふる）える名作、不穏な古典」の中である。岩崎稔先生は古典や名作の中の歴史の中の植民地支配、レイシズム、性差別、異性愛主義、家父長制度に触れ、だからこそ古典や名作を廃墟から掘り出し、復元し、再体験する必要があると説く。

この巻頭言の次のページから始まる外語大に属する人々の、新入生に紹介する本のラインアップには心が顫える。

古典を持ち上げる一方で時代だったから不適切と片付けてしまうことも多い。私たちには今の我々の目を用いていろいろなことを再体験することが求められているのだろう。

ちなみに、師岡熊野神社の上には群馬県のような広大な森が広がっているそうである。今度、行ってみようと思う。

（高橋　整）

高校二年便り

時代の流れ

「失敗を恐れずに、おもいっきり頑張りなさい。」

今から三十年ほど前、私が就職して間もない頃、先輩の先生方からよく言われた助言だ。

近頃、時代の流れという言葉をよく耳にする。何に対しても、この一言でごまかせてしまう。私もその一人である。大嫌いな言葉だが、ついつい使ってしまう。

「失敗をしないように気を付けなさい。」

時代は流れ、今はなんとなくこの言葉が最も無難な助言となったようだ。

昔と現在を比較するのは野暮なのはわかっている。ただ、大切なものは、過去、現在、未来と何一つ変わらないものであると信じたい。

共に生きる力、テーマを持って真理を探求する力を育てるという、本校の教育目標に対して背を向けないためにも、各々が深く考え、日々の生活を大切に過ごしていってもらいたい。

【人生は自転車のようなものです。転ばないためには動き続けなければなりません。】

【自分に誠実でない人間は、他人から大切にされる資格はありません。】

【過去から学び、今日のために生き、未来にたいして希望をもつことです。】

今の私は、君達に偉そうな言葉を伝えられる立場ではない。【】のいくつかの言葉は、私とは全く無縁な理論物理学者、アインシュタインが残した言葉である。

【この世に無限なものは二つある。「宇宙」とそして「人の愚かさ」だ。】

愚かだからこそ学びが大切なのだろう。敢えて言おう。失敗を恐れずに適度に頑張ってください。

（古賀賢之）